

志を持っていますか

会長 中嶋 功

今年も9名のフレッシュマンを迎えて、第136期が始まります。毎年めぐってくる企業年度の期首には年輪の重みを感じます。同時に入社時の初志に思いを起こす機会でもあります。

企業人なら誰しも、社会人への第一歩を記した春に志を抱いたはずです。一度しかない人生を大切にしたい。幸福になりたい。充実した人生をおくりたいと。あれから実務に没頭して歳月が流れましたが、志をしっかり持ち続けていますか。

万一、いま人生にやりがいや意味を見出せないとしたら、恐らく原因の多くは志を忘れ、具体的な目標を持っていないからではないでしょうか。幸福の定義は達成感であるといわれていますが、達成感も明確な目標なくしてはありえません。

段階的な目標を設定し、達成に向けて限られた時間を有効に活用して、今日一日を一生懸命に生きる。今日得られた充実感が明日への活力となって更に上をめざしていく。この繰り返しが充実した人生になっていくのですが、その出発点は立志です。

立志とは人生に対する覚悟を決めることです。人はどういう志を持っているかによって、その人生が決まるといっても過言ではありません。いま女子プロゴルフ界で宮里藍や諸見里しのぶプロの活躍に熱い視線がそそがれています。その魅力はアマ時代からアメリカで活躍したい、メジャーで優勝したいという高い志を持っているところにあると思います。

もちろん志は若者だけの特権ではありません。30代は30代の、50代は50代の志を持ちたいものです。いま振り返ってみますと、私の入社当時の志は「中小企業で思う存分働きたい」という漠然としたものでした。業界環境もよく、目先の仕事は面白かったので、真面目・熱心に一生懸命働きました。営業力もつきましたし、充実した日々を過ごしました。だが、その先の志や目標が明確でなかったのです。今のような社内教育制度による自己啓発への動機付けもなかったこともあり、気がつけば、ほとんど勉強らしい勉強もせずに、30代を無為にやり過ごしてしまいました。

順風であった業界環境に変調の兆しが現れ、仕事が思うようにいかなくなり始めるといけません。途端に仕事にやりがいを見出せず、マンネリに陥ってしまったのです。目標を持たずに、自己啓発もしなかったのが原因でした。

40代に入り、二度の立志が私に向上心と闘争心をもたらしてくれました。将来への不安から心機一転、自己啓発に取り組み始めたのが40歳でした。

二度目の立志は48歳の秋、その年二回目の蔵王坊平高原での合宿研修のときでした。低収益の会社を立て直したいという思いで参加していたのですが、鍵山整充先生の「目標が低い。一度限りの人生、会社を上場企業にするくらいの大志がほしい」という言葉に大きな衝撃を受けました。当時、上場など夢のまた夢でしたが、蔵王の風は戸惑う私に「会社を真の中堅企業にしたい」「一流企業人になりたい」という高い志を持つ勇気をくれたのです。その後社長になり、会社は店頭登録（現ジャスダック）、東証二部、東証一部へと順調に上がって行きます。それらは蔵王坊平での立志から始まり、段階的目標を、みんなの協力を得て実現できた自然の流れでした。

いま、第34回「現代ビジネスマン」通信講座（10カ月コース）に中堅の8名が完走をめざして奮闘中です。

いかに無知かを思い知らされた／家族の協力で勉強時間を確保している／週末は論文作成に没頭している／出張時に課題図書を持参している／締め切りの重要性を痛感している／社会・職場・人生を考える機会になった／すべてが新鮮です／文章力と根性が身についた／今後の目標を考える機会となった／みんなと共通の体験ができたことが組織のチームワークに結びつく／この体験が机に向う習慣になれば／…

公私とも多忙な中堅ビジネスマンが長期にわたりレベルの高い課題に取り組む姿に、一人ひとりの強い決意と覚悟を見ることができます。人生、志のあるところに道が開けるのです。

**SPK**